

昇降口錠前制式圖ハ軍艦並特務船之限り使用
 驅逐艦、水雷艇並潜水艇用ニ更ニ別圖ハ
 通制式定ム自給艦、夜間艦、水雷艇、潜水艇
 在来使用ノモノハ改定スルニ及リス
 右訓令云々
 別圖一葉あり
 陸

海

商

格原結

0358

軍務第四
機密

軍務

現所の調査、如くある、修理の施すハ
可く費用、限つたの調査、道に注意する
此條の表し、是の表し、如く、如く、如く、
如く、如く、如く、如く、如く、如く、
如く、如く、如く、如く、如く、如く、

改正

海務

海

軍

訂 相 査 官 官 官

0360 0359

機密第四〇六號
二

軍務局

吳鎮機密第七六九號

大正五年十一月十四日

海軍省軍務局長、栗孝三郎殿
吳鎮守府參謀長山中柴吉

第課長(官)局員

軍務機密第四〇六號御照會、件當工廠ニ於テ調査、
結果別紙意見ノ通り有之、舊龍田横須賀田航ハ相
當加工、上天候ヲ見計ヒ接岸航行セシムレバ絶体ニ不可
能ニ無之モト認ム
右回答ス

(終)

海軍

0360 0359

16

呉工廠密第四八號一九一七

大正五年十月十一日

呉海軍工廠長 伊藤乙次郎

呉鎮守府參謀長 山中柴吉殿

旧軍艦龍田改造ニ関スル件

軍務機密第四〇六號ヲ以テ同局長ヨリ貴職宛照會ノ
本件ニ関シテハ曩ニ海軍技術本部長ヨリ照會有之候
ニ付改装方案提出致置キ候猶ホ現状ノ修補須加算ニ
回航ノ可能ナルヤ否ヤニ関スル當廠ノ所見ハ尤記ノ通りニ有
之候條御了知相成度

右通牒ス

0361

多量かまをりたおま
イロトのりん (85)

左記

海軍

一、船体ハ現状ノ儘ニテ航海ニ堪ヘ得ル見込ナルモ荒天ニ對シ

テハ多少注意ヲ要スルモノト認ム

二、機関ハ目下防錆保存ノ儘ニ付キ罐内外部掃除及ヒ氣

筒解放検査等ヲ施セバ回航ニ差支ナキ見込

之ニ要スル工事日子ハ十五日間

三、電氣兵器ハ取外シアルヲ以テ復旧ニ二週間ヲ要ス

(3)

0362

供覽

至

艦政司

技術本部

軍務局長



第一課長



局員



大正五年

十月三日起案
十月一日發付濟

軍務局長

吳鎮參謀長宛

旧軍艦竜田改造ニ関スル件

旧軍艦龍田ハ之ニ必要ナル改造ヲ施シ横須賀ニ回

航將來同鎮守府ニ配屬セシメラルヘキ第一第二第十三

潜水艇ノ母艦ニ充テラルヘキ内定ニテ既ニ其ノ改造方

案モ定マリ不日ニ着手方訓令可相成運ニ有之矣

屬一部ノ意見トシテ同艦ハ船體ノ腐朽甚シク此際

相當ノ修理ヲ加フルトモ到底母艦ノ任ニ堪ヘス横須

機密第四〇六號

三木田樹

海軍

0363

賀田航ノコトモ恐ラク困難ナルヘキヤニ聞及 矣然ルニ
同艦ノ改造ハ貴工廠ニ於テ立案セラレタル通船體ニ
於テ

(一) 吃水附近ノ外板ヲ兩舷全長ニ亘リ一枚通りノ取換

(二) 上板ノボイラーケージ附近甲板面ノ腐蝕セル鋼

板張換

(三) 石炭庫縱隔壁及橫向隔壁ノ下部一枚通り取換

等ヲ主トシ至要ノ小改造ヲ施サハ相當期間其ノ任務ニ

堪ヘ得キ當局ノ見込ニテ夫々進行致度豫定ニテ其

尚為參考同艦ノ現状ニ徴シ一應貴見承知致度

右照會ス

(3)

(五川橋)

0364

寫

軍務局

艦政

<p>興港籍三三〇號一 人 一九五五年十一月十日</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍之撤生部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>	<p>海軍艦務部</p>
--------------------------------------	--------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

(吳永井納)

0365

二、發電氣及合開聯裝置	二、自航橋通 至機室	四、羅針儀	五、舵輪上金物	六、操舵員踏基	七、救急浮標	八、錨鎖及合附屬品	九、揚錨機開聯裝置	一〇、機室及正室通風筒	一一、艙所用電及煙突	一二、煖炉用煙突
		二、何	二、何	一、何	四、何		一、何	全、部	二、何	二、何
船及平常點燈等電程度ノ電燈取付	検査車入及部傳聲管ノ小修理ヲ要ス 操舵用但し左庫品トシテ左庫ト入 舵原基用ノ個ヲ増設スルヲ便トス	破損ノモトノ小修理ヲ要ス	小修理ヲ要ス	カピスライノ備付ヲ要ス 西船共良好ナルモノ知悉ノ渠ニ降ニ移 換査錨鎖庫内ノ救急組ヲ要ス	分解ノ小修理ヲ要ス	手入ヲ要ス	小修理ヲ要ス	船長室及表室内ニ新規取付ヲ要ス		

0366

三、夕下ノポン	一ヶ所	手入要ス
四、士官室、士官室及兵 負用所	三ヶ所	小修理ヲ要ス
五、糧食庫内船窓締付金具	一ヶ所	全
六、交流巻戻内船窓締付金具	一ヶ所	全
七、士官室用洗面所	一ヶ所	應急修理ヲ要ス
八、船長用トイレ	一ヶ所	小修理ヲ要ス
九、合 浴室浴槽	一ヶ所	全
一〇、士官室隔壁	一ヶ所	電信室排氣管位置、腐孔、小修理 ヲ要ス
一一、主神機材及宅	全部	手入換木ヲ要ス

(3)

0367

藤田機関現狀

除籍後報告等十キヲ以テ目下機関ノ狀態多
少ノ變化十キ又確カナラザルモ大正四年十一月
月報其他ニヨリハ機関現狀次ノ如シ

一 機械

多クノ身入修理ナセハ尙^略全力運轉ニ支障
十キ元ト認ム

滑動部 白色合金等ハ摩耗セルニナリ

二 雜

大正三年九月雜管切肉並ニ水圧試験ノ結果ニヨリハ
管内部ノ異蝕至テ斷ク概シテ良態ナリ尙當

(藤田 續)

0368

分使用^機全カ汽機之支差ナキモノト認ム但シ

律業力口カ山^シ中^シ水^シ準^シ維^シ以^シキ^シ小^シ集^シ融^シナ^シリ^シ煙^シ突^シ出^シ部
此^レ々^レ之^レ腐^シ蝕^シ穿^シ孔^シ部^ニテ^リ多^ク少^クノ^レ修^シ理^シヲ^レ要^スル^ハシ

三、補助機械及電機部

動作動力概シテ良態好ナルモノト認ム

機部^機艦^機維^機(^田維^機式)ハ^一年^一使^用ノ^レ結^果稍^衰弱^セル^ハシ

茲^レヲ^レ使^用前^ニテ^ハ相^当ノ^レ検^査ヲ^レ要^スル^ハシ

蒸^気管^排出^管蒸^気管^ニ著^カセ^ル部^ヲテ^リ一^應ノ^レ検^査

ヲ^レ要^スル^ハシ

四、艇体部

腐蝕穿孔^等生^ズル^所多^クテ^ハ止^ムヲ^レ要^スル^ハシ

(坂田 勘)

0369

海軍

若ハ鉄板才當テ應急修理ヲ施シ使用トシ

精^リ修^リ所^ヲ了^リテ

要^スク^ハ核^心部^ノ現^在狀^ハハ^ホ多^ク概^シテ^ハ良^好態^度ニ^シテ^ハ少

ク^ハ檢^査修^理ヲ^行ハ^ス當^局全^力運^轉ニ^堪エ^得

ル^ニト^思フ

(坂田 納)

0370

船改送付

起案部紙

大正五年六月十六日起案
六月二十六日發付
發付後起案者捺印

大正五年六月十六日
次官

參事官
副官

總政局長

第二課長

第五課長

第四部

副官

技備本部技

第一課長

第二課長

局員

經理局長

勝

第一課長

村橋

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	醫務	人事	軍務	官房	局部
												受月日 六月廿八日
												發月日 六月廿八日

大正五年六月二十八日
海軍大臣
是工第四号、五五三ノ二第十三潜水艇之橋及信号装置
改造御認許

(別圖呈案係)

(終)

官房

一

三

政艦
5.6.19
受19.

0371

6.16

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

株原納

シ

一

0372

艦政局

技術本部

第四部

副官

吳士第四號、五九三三

大正五年六月八日

海軍工廠長伊藤乙次郎

第二課 海軍大臣加藤友三郎殿

第一主務潜水艇之橋及通信機臺改造ノ件

右別紙第二潜水艇隊司令ヨリ請求ニヨリ調査ノ處

上甲板信務臺除去共ニ艇橋改造必要ト認ムニ付

別面ノ通り改造方御認許相成度ニ事方格相添一

右ノ上申ス

ニ事方格請求書字各壹通

面通 添付

第四部製

本局ヨリ

海軍

代官

副官

副官

官房受

6.9.12

5.6

5.6

0373

5.12

1167

大正五年六月五日
才十三潜
本件異存

軍

軍

伯添一

仁彦等

彦慶

0373

大正五年六月五日

海軍技術本部第四部

才三潜五砲々格等改先件

本件異存⁺認許至南上認⁺

0374

寫

第十三號潜水艇之橋及信務臺改造工事方格

造船部

一、上甲板、信務臺ヲ全部撤廢シ艇橋ヲ別番如ク補修大シク之ヲ
ヲ改造シテ潜航之際ニ西舷トモ同時ニ倒シ得ル装置トス

二、工事費

工 費 五拾円

材料費 四拾円

付屬費 拾六円貳拾五

合計 百〇六円貳拾五

三、工事日数

十日間

四、重量増減

別表ノ通り

(3)

海軍

0375

寫

二階隊第四號八九

大正五年四月三十日

第二階水艇隊司令

長工 廠長 宛

艇体改造ノ件

(第二階水艇)

一上甲板信務台ノ除去

一ヶ所

理由一、本信務台(プラットフォーム)敷設前多ク平穩ナル海面ニ於テ行動ニ
 當時旗旗機号ヲ用トシテ上部構造物上ニ長サ八呎幅四呎ノ細長台状ノ
 床板ヲ取付ケタリシガ昨年度末外洋ニ活動スル場合多ク從テ機機号
 台ノ常ニ波浪ノ洗フ処トナリ知レ信務台ニ艇橋上ニ在テ從事スルヲ止ムヲ得
 サルニ至リ何等役立ツ處ナク且ツ長波波浪中ノ潜航ニ於テハ艇体ノ縦
 動甚ダシク仰俯角廣ク乃至八度ニ及ビ危險ヲ感スルヲ以テ階橋艇体依
 リニテ抑制セントスルニモ機機号ノ一種機機号ノ作用ヲモ階橋艇ノ効力
 ヲ減殺スルヲ認メ本艇潜航中艇機動ニ對シ不安定ナル其因ヲ去スニ実

海軍

0376

驗セリ

二 后部取敵之薄弱ニ依リ船体ノ補強ヲ施シ且ガ爲后部ニ重量ヲ増加スルヲ以テ之ヲ除去スル時ハ重量ヲ軽減スル事ヲ得

三 潜航中ノ抵抗ヲ減シ速力ノ増進ヲ期ス事ヲ得

四 艇体ノ構造トシテ良好トス

但し本艇揚子台除去ト共ニ艇揚子方甲板面ヲ少シク補足拡大スル事ス

右諸ホス

(3)

海軍

0377

船政



技術本部

艦政局

機關局

國面可收
重増成水尾
1925年

横濱第三十九番
大正九年五月十五日

大正九年五月十五日

藤井 較

加藤友 郎殿

第五課
第四課
第三課
第二課
第一課

事務

本年八月官房第九五五號
防熱仕立等改造工

建築師表葉完本圖面二葉係

官房第九五五號

技務 5.28.30

五技 10.30

5.10.19

5.10.19

10.16

政艦 5.10.16

10.20



5.10.16

0378

5.11.6

1023

記帳簿 機關局

起案罪紙

大正五年六月五日 起案者 檢印

六月十九日 發付 檢印

發付後起 案者檢印

(主務)

艦政局長

第二課長

副官

第三課長

大臣 齋

官 參事官

第一課長

技術本部長

第五部 第四部 第三部 第二部 第一部

第一課長 局員

經理局長

第三課長

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
													受月日 發月日

大正五年六月十九日

海軍大臣

橫領司令長友

軍艦八雲 防禦裝置等改造

軍艦八雲 防禦裝置等改造 方橫廠第5号

號番

官房 一九五五號

技本 5.8.8

技 6.12

技本 5.6.8

政艦 5.6.7

6.5 艦政會 6.6

0379

一五二ノ四ノ其ノ村工廠長ヨリ^{海軍}技術本部長ニ提出スルノ方案
一通工ヲ施行セシムル
右訓令云々
(別冊之系(原))
(純)

捺原納

0380

海軍省

第三課
第二課
第一課
第五課

技本第二〇四三號

大正五年六月一日

枋内海軍技術本部長

中野海軍省艦政局長殿

伊藤

(半島)

八雲彈火藥庫改造工事ノ件

庫艦ハ雪ニ對シ別紙工事方案ニ依リ火藥庫防熱装置
等改造方可然御取計相成度

右照會ス

伊藤

(印)

艦政船第 〇四三 號

海軍

艦二
6. 3

政艦
5. 6. 2
受接

三政艦
5. 6. 3
受接

0381

軍艦八雲蒸汽及排出管防熱改正工事方案
 兼入費概算書

一、工事方案

造船部

一、前薩室ト中薩室間ノ蒸汽管通路ヲ通過ス

蒸汽及排出管、防熱材ヲ充塞、通り改正ス

管種類管内径

防熱材ノ厚

摘要

蒸汽

一一〇

鉛包

二吋三分

左舷

同

一九〇

〃

三吋四分

同

同

一九〇

〃

三吋四分

右舷

毎頁

0382

排出	一六〇	ノ	三叶	三叶
造船ノ部				
(一) 別首(雜第三八四回辨)ニ示ス如ク庫内両舷ヲ贯通 セル蒸気管履板防熱材ノ厚サ現在九叶ヲ拾葉 寸ニ改正シ夫レノ伴日彈丸格納棚及通風管ヲ 改造スル事 附記本蒸気管通路ノ拾メテ脱落ナルモノニテ特ニ 換氣装置ヲ設クルモ殆クド換氣ノ効果 無シト認め 三工事豫算、工事日数及重量増減 三工事豫算、工事日数及重量増減				
区分	三叶	材料費	附屬費	計
区分	重量増減			

0383

合計	造船	造船
七四	五〇	二四
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
六六七	六〇	六〇七
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
一一八	一七	一〇四
五六	六〇	九六
八五九	一三七	七三一
五六〇	六〇〇	九六〇
	一〇	一〇
	〇・四七六	〇・三六三
	〇・一四	〇・一四

海

軍

終
果七六

0384

參謀長 (田所)

副官

5.6.12

5.6.9

5.6.15

佐廠第四番 一四五

大正五年六月五日

六月六日 海軍大臣

佐世保海軍工廠長 田中盛泰

佐世保海軍工廠長印

加藤友三郎殿

艦政局

薩摩黒色火薬庫改造方別紙寫通令艦長
請來有之精査候處必要ト認候條御認許相

成度

技術本部 右上等

第四部 副官

重畳増減表

重畳増減表 艦長請來書寫

二道 葉添

金部

井口

細部

高部

山部

山部

官房第一八四五號

0386

0385

大正五年六月五日 薩摩黒色火
本件異存ナレド

海軍

(終)



0386

通令艦長
仰認許相

613

大正五年一月二十号 海軍大臣閣下御第四部	薩摩黒色火薬庫改造件	本件異存ナシ認許至事ト認メ
-------------------------	------------	---------------

紙 郵 案 起

大正九年 七月廿九日 起案者 檢印

大正九年 七月廿一日 發付 檢印

發付後起 案者檢印

吳工四号ノ五五八ノ一上付

5.7.25 5.7.24 5.7.20

7.19

大



官

參事官

副官

逓政局長



第二課長

第一課長

第五課長

英

官

軍務局長

第一課長

局員

技術本部長

第二課長

局員

經理局長



第四部

局員

第三課長

局員

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技術	逓政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
													7月21日
													7月21日

大正五年七月二十日
吳工第四号ノ五五八ノ一軍艦常盤黒色公其庫
及六吋三吋彈庫改正件
認許

但別國中朱書一通訂正ヲ要ス

番 官房第二一九五號ノ二

7.24 144

5.7.25

5.7.20

0387

別冊の系図

國面志孝
大正五
八
十
技術本部
保管



後

洋

目

捺原納

0388

海軍技術本部第三部

技三圖

NO. 2035

大正 0. 7. 14

艦政局

技術本部

第四部

第三部

參謀長

參謀

副官

5. 7. 1

技三接

5. 7.

5. 7.

七月八日

政艦 5. 7. 8

大正九年七月六日

八月六日進達

信司合

吳鎮守 吳海軍工廠長伊藤乙次郎

海軍大臣加藤友三郎殿

軍艦常警黑色火藥庫及六寸三吋彈庫改修に伴
本件常警第一號火口請求依り必要下註別紙面
面及方換通リ計画致条御認許相成度
右申上

這子乃改造目下工事中火藥庫冷却装置下合時之
成り度三月大至急御協議相成度

(別紙面四枚五枚方換通リ計画致条は是等通)

房第林一九五號

第四部製圖室

三計書

海

軍

紙用箋附

0389

大正五年七月十日
常務理事

大正五年七月
艦政司
本件生書
候條可思以取
追下生書

月八日

海軍省

紙面

時

紙用箋附

0389

政艦
5.7.8

紙箋附

大正五年七月十五日

保存

海軍技術本部

大正五年七月十日

海軍技術本部第四號

常務理事

大正五年七月十日

艦政司

海軍技術本部第四部

本件生書一通、一冊訂正、外、保存、各、

候、修、可、思、以、形、計、相、成、度、

追、下、各、各、の、増、設、の、事、要、之、修、修、の、為、念、

中、務、候、
3、

0390

月八日

紙面

0389

政 5.7.8

7.10

紙 箋 附

大正五年七月十日 海軍技術本部第四號
 常務理事 佐野 政一
 署名ナシ

0391

大正五年七月十三日
 署名ナシ
 海軍技術本部

官艦常設黒色火薬及後部銃管架庫改造工事方案

(造船部)

一 船倉前部現黒色火薬庫九艇側穿水雷科信管庫及左右艇後方ノ穿水雷科要具庫ヲ取拂ヒ別箇ニ如ク黒色火薬庫ヲ擴張ス

後箇新隔壁ハ穿水雷科鋼板ヲ用ヒ前ノ厚サ1/4名綿紙2/4アベキ板及1/4木板各層板先ヲ以テお張りシテ入庫内雜作ハ空放火薬灰ヲ積ミ重シ得ル様適宜ニ行フ

二 穿水雷科信管庫及左要具庫ヲアラウトウホーム甲板後部近ニ所定彈架庫跡ニ移ス

詳細ハ別箇ニ示ス如ク中間壁ノ入口ヲ閉鎖シ後部ヲ信管庫ニ前部ヲ要具庫ニ充ツ

要具庫ニ此部分ヲ冷却装置及お張り全部雜作ヲ取拂ヒ別箇ニ

0392

ヲ設ケ白澤水筒科要身庫ノ雜作ヲ移裝ス

信管庫ニ該縣ノシトノ材料ヲ以テ張ラシテ適宜信管庫ノ雜作ヲ移裝ス

ミブラットフオーム中核後部六時及三時彈庫間ノ杜切ヲ取掛ヒ全部ヲ

六時彈庫トス

彈ヲ格納棚ノ配列ヲ變ヘ(彈ヲ格納數ニ變更セズ)便利ヲ能シル亦

庫ノ隅ニ信管格納所ヲ設ケ銃亦裝置ヲ施ス

四ブラットフオーム中核後部在艦信管庫ヲ三時彈庫ニ改造ス

庫内ノ雜作ヲ取掛ヒ旧ニ時彈庫ノ之ヲ其後移シ別ニ隅ニ信管格納所ヲ設ケ銃亦裝置ヲ附ス

五ブラットフオーム中核前部旧所半彈庫ヲ小銃彈庫ニ改ム

棚ハ現在ノ依トシテ部令ニ動搖止ノ門ヲ増設ス

六ノ費概算

六ノ費概算

0393

材料費 金壹千六百九拾圓

工費 金五百八拾圓

附屬費 金四百八拾六拾錢

合計 金貳千六百七拾四拾錢

工率日數 壹ヶ月

八重量増減 別表ノ邊

海軍

0394

運糧常設倉庫及火藥庫及水雷部所屬倉庫改造 附九工率訂案

(水雷部所屬)

一 工率訂案

造船部工率訂案より改造及修繕費受取ルル色火藥庫小
銃彈庫庫内水雷庫内水雷庫内水雷庫内水雷庫内水雷庫内
雷料要具庫等別紙添付ノ通リ電燈ヲ敷キ其電路ヲ敷設ス
電線ノ最寄リ分電路管ヲ給電スルトス

二 入費概算

工費 貳拾四

材料費 參拾四

附属費拾四

合計 六拾四

三 工率日数 三日間

四所要出番 (能給ヲ要ス)

電路接断番 西極 七所

但し電路接断四番水防小七所ハ還納ス

其量増減 ナシ

0390

0396

皇三十四年五月六日 附

本國第一師古

大正九年四月三日 才助 艦長

真上 敬

彈藥庫改造件

前部所裝彈藥庫ヲ思色火藥庫ニ改造ス

彈内本艦里百火藥庫ニ性空放裝具ヲ紐状火藥ト共ニ

納メテ特ニ此等火藥庫ニ收ル何等ノ設備トモナク又

枚檢ニテ現今視テ思色火藥ヲ格納スルニ足ラズ此等

彈藥ヲ格納スルニ以テ其彈藥庫不用ニ滿レルヲ以テ

彈藥庫ニ却テ改造スル此際右ノ改造ヲ要ス

後部所裝彈藥庫ニ亦同様に改造スルヲ要ス

大正九年四月三日

尾木大校士

牛田工手



0397

經曰現在山院釋菜庫漸之文滿散之拾州之澤谷後
府正過其地以不向不田歸レテ山後部之所生釋菜庫
小號釋菜庫トシ消絶釋菜及規定火土高類ヲ拾州
得レ必此際改定ヲ要ス

信管庫ヲ六三釋菜庫改定ヲ要ス

經曰後部之山院釋菜庫林隘ニテ釋菜此ノ信管ヲ收
ル餘積才ヲ以テ不向レ信管庫ヲ六三釋菜庫此際改
定ヲ要ス

右録水ス

(3)

0398